

## 令和4年度第2回北杜市八ヶ岳スケートセンター管理運営委員会 議事録

日時：令和4年8月8日（月）14：50～

場所：小淵沢総合支所 会議室

出席者：管理運営委員会委員8名

欠席者：6名

事務局：加藤教育部長、平井参事、渡辺生涯学習課長、社会体育担当 利根川、相良

1. 開会

2. 会長あいさつ

3. 協議事項

（1）スケートセンター運営目標の設定について

（事務局）運営目標について説明

（委員）短期の令和4，5年度について、収支を考慮するべきではないか。単年度で収支が想定された人数であっているか。

（事務局）収支と目標人数は差がある。利用者の半数が市に移管された際に、減免規定が適用される。利益も大事と考えているが、小中学生の底辺の拡大もあるため、年間利用が可能となったところで、収支が追いつけるようになればと考えている。

（議長）原油高など費用が掛かってくると思うが、スケート振興という視点もあるため、目標19，000人についてほかに意見・質問はあるか。

（委員）今年度、来年度は直営だが、業務内容など委託先は決まっているか。

（事務局）受付業務は会計年度職員を採用し、安全面から正職員を1人又は2人配置することを考えている。氷を作ることについては、外部に委託する予定。

(委員) どの辺の人を増やすのか。また、子どもの数が減少している中で利用者を伸ばすことが可能なのか。利用者を増やす取り組みはあるのか。

(事務局) 市内の小中学生には限度がある。これまで県で運営していた際に、親子連れが多かったため、観光客が親子連れで来ることを期待している。スケート教室の開催ができる指導者をセンターに配置し、初心者でも利用できる状態ができればと考えている。今まで以上の目標を設定し、イベントなどの対策を行い目標に向かって努力をしていきたい。

(議長) 広報活動が大事になってくる。県において観光情報誌、バスのラッピング広告で県内外にPRしていた。やるべきことはすべてやるべき。

(委員) スケートを始めてもらいたい層への働きかけはあるのか。スケートクラブに入れる仕組みや誰でも来やすい環境を整えないと、スケート振興につながらない。中学校に上がるとスケートをする人数が減っている。裾野を広げて、人数を増やす取り組みをしてもらいたい。

(事務局) スポ少の代表者からお願いします。

(委員) 学校と協議しながら対応は可能。中学校は泉と小淵沢で合同練習をしている。小学生については先生方に協力を得て、9月から体育館で練習をしてる。

(委員) 小淵沢と泉以外に広がる目処はあるのか。

(委員) スポ少に入りたい希望者がいれば相談に乗る。過去に相談があったが、家庭の送迎関係で悩んでいた。

(議長) 裾野を広げるためには小中学校にスケート教室を開催し、経験してもらう。

(委員) 保護者からすると寒い中できついというイメージを持っているため、やらせたくないと思う。スケートを小さいときからやっている人からやってよか

ったと思うことを説明する機会があればよりいいのではないか。

(委員) 市民向けの広報活動を含めて、足を運んでもらえる機会を作ることが大事。スケート教室は市内の子どもにやってもらいたい。記録会を定期的に行っているところもあり、ステップアップしているのを子どもも保護者も感じることができる。

(委員) 各学校でスケート教室を行う場合、指導者の受け入れが整っていれば教員は連れていきやすいのではないか。受け入れは可能なのか。

(委員) 指導者の方も仕事についていて難しいところもある。泉、小淵沢はスケート教室に特徴がある。泉小では高学年が低学年に指導をしている。高学年はほとんどの子どもが滑れる。先生方はどういった指導をしたらいいのかわからないため話をする必要がある。八ヶ岳スケートセンターは手すりがないため、不安な子が多いことが課題。センターから遠い小学校については工夫が必要。

(委員) 目標数値の19,000人は全国的にも高い数値になる。天候不順で利用できない中でも多くの方が利用している。指導も工夫をして行えば問題ない。全国的に屋内リンクが出ていることやインラインスケートの整備が整っているため、技術の差が顕著で中学生に上がったところで人数が減少してしまう。山梨県にはローラーがするところがないため、そういった施設が整備されれば、長い目で見れば成果が出るのではないか。全国に通用する選手の育成やスケートの楽しさを伝えることが大事。

(議長) 原村、富士見に再度声をかけていただきたい。北杜高校では強化練習とかあったか。

(委員) 北杜高校では小中学生と一緒に練習することはなかった。今年から中学生が練習に参加している。校長先生同士で協議し、中学生の指導者にも参加してもらっている。力の差があり、すべて一緒にはできないが、高校としては特に問題はない。過去に高校生が小中学生に教える機会があったが、生徒同士の指導だと保護者が不安になってしまう。子供が集まれば集まるほど指導者が必要にな

る。南都留でもスケート教室があり、グループごとに指導者がいる。

(議長) 今シーズンについて、北杜高校は八ヶ岳スケートセンターを利用予定しているか。

(委員) 予定している。

(委員) 各学校のスケート教室について、先生は経験がないため、指導者が必要になってくる。市で場所を整備していただいたため、利用したいが指導者が課題になる。上級生が下級生に指導など、過去にスケート教室をやったことがない学校については負担になる。

(事務局) これまでもスケート教室の開催依頼をし、開催してもらっている。天候によって使えないため小瀬を利用している学校もある。指導者については、こちらで登録している指導者に依頼をかけて、対応していただいている。屋外のため安定的な提供は難しいと思っている。先生・指導者・保護者にご協力いただきながら現在まで至っている。今後も利用していただきたい。

(委員) 部活動について指導者をお願いしているが、先生が立ち会わなければならなかった。部活動は地域に移行していかなければならない。市に補助していただきながらスポーツクラブという形で小中学生がスケートをするほうがいいのではないか。

(事務局) スケートの裾野を広げるべきだと考えていて、裾野を広げるためには、施設の中で指導できる体制が必要である。指定管理者制度を活用する際にも施設にいつ行っても教えてもらえる体制が必要と考えている。市民への周知をいろいろな媒体を活用、校長会での周知を行っていき、利用しやすい施設を目指していきたい。

#### 4. 閉会